



地方行政の醍醐味とは？

岐阜県副知事
平木 省 HIRAKI Sho

- 平成 9年 4月 自治省税務局府県税課 8月 福島県市町村課
- 平成 11年 4月 自治省大臣官房総務課
- 平成 12年 7月 同 税務局府県税課
- 平成 14年 7月 総務省自治税務局企画課
- 平成 15年 7月 留学(ハーバード大学、ニューヨーク大学)
- 平成 17年 8月 浜松市財政部長
- 平成 19年 4月 同 財務部長
- 平成 20年 7月 総務省自治税務局都道府県税課課長補佐
- 平成 22年 8月 京都府総務部自治振興課長
- 平成 23年 6月 同 政策企画部企画参事
- 平成 24年 4月 同 政策企画部副部長
- 平成 25年 4月 総務省大臣官房政策評価広報課企画官
- 平成 26年 4月 同 自治税務局企画課税務企画官 9月 総務大臣秘書官事務取扱
- 平成 29年 8月 総務省大臣官房政策評価広報課企画官
- 平成 30年 4月 同 自治税務局都道府県税課自動車税制企画室長
- 令和 元年 7月 現職

新型コロナ対応で感じる「地方行政の醍醐味」

長期に亘る国家的危機事案である新型コロナ感染症。岐阜県副知事としてその最前線に立ち続けてきたこの2年あまり、地方行政に身を置く充実感を存分に感じてきました。

岐阜県では、「自宅療養者ゼロ」を掲げた医療提供体制の整備、最新鋭機器による大量検査体制の構築、感染の予兆を捉える独自指標の設定、全国初の感染症対策基本条例の制定など、試行錯誤しながら、常に先手の対策を打ってきました。

県、市町村、医療団体、経済団体などが一堂に会する「オール岐阜」対策協議会での迅速な総合対策の決定、GW返上で行った接種体制構築により実現したワクチン接種のロケットスタートなどの県民一丸の取組みは、「飲食店等の短時間率99%超」、「高齢者接種のスピード全国1位」など目に見える成果をもたらし、早期の感染抑制につながりました。

これからはアフターコロナへの政策実行段階に入ります。DX、カーボンニュートラル、新次元の地方分散と課題は山ほどあり、今まで以上に私たちの構想力が問われます。

地方行政の醍醐味は、政策を決断し、実行する責任を背負いつつ、やり遂げれば、地域が前に進んだ確かな実感を得られるところにあります。リアルな現場に自らの力を試され、決断の重圧を感じつつ県全体が一つとなるよう汗をかき、結果を出し、自分の成長を感じる。何とも言えない充実感がそこにあります。

「確かな経験」と「豊かな出会い」

これまで、様々な出会いにも恵まれてきました。高市早苗総務大臣(現自民党政務調査会長)には歴代最長の1066日間、秘書官としてお仕えし、消費税率引上げと国・地方配分を決めた「国と地方の協議の場」には山田啓二全国知事会長(当時京都府知事)の秘書役として関わりました。グリーン化税制、外形標準課税などの大改正をはじめ6

度の税制改正にも携わりました。浜松市時代に行財政改革推進審議会の鈴木修会長(現スズキ相談役)から毎週のようにご指導いただいたのも、今の私の糧となっています。

リアルな現場での確かな経験と豊かな出会い。旧自治省に入って四半世紀、「地方自治を志したことは正しかった」と確信しています。

志を同じくする皆さん、総務省でお目にかかりましょう。お待ちしております。



古田岐阜県知事とコロナ対策協議会に臨む筆者

日米関係の現在

経済安全保障——この言葉が注目を集めていますが、私が担当する情報通信やセキュリティに関する日米経済外交においても、最重要トピックの一つとなっています。

5Gの文脈では、特定の第三国が、携帯端末や基地局、ソフトウェア等のサプライチェーンを垂直統合的に支配しないよう、複数の事業者が多様なサービスを提供し、それらが相互に接続する仕組みを広める考え方につながります。米国は、5Gが単なる通信サービスではなく、あらゆる社会経済活動の基盤となることを見据え、特定国への依存リスクを減らそうとしていますが、こうした考えは、5Gの国際競争力を高めたい日本の戦略的立場とも一致していますので、日々の米国政府とのやりとりも非常に前向きで、「次に日米で何をしかけようか」「次はどの国とパートナーを組もうか」といった刺激に満ちています。

GAMEPLAY?

外交は相手のある「ゲーム」であり、片方の思いだ

けが通用するわけではありません。5Gを多様化しようと言っても、国内規制を所管する総務省としては、事業者間の公正競争めきには議論できないですし、特定の国に焦点を当てすぎると、「一つのインターネット」を堅持してきた立場からは、世界で日米以外の仲間づくりをする妨げになるのではないかと心配にもなります。

時には、こうしたことを同盟国として「忠告」し、喧々諤々の議論になることもありますが、最終的に双方の国益になると信じた方向に物事が進んでいく時の満足感には、他に代えがたいものがあります。

視点が交錯する先に

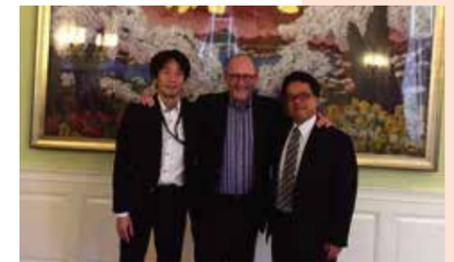
総務省のキャリアパスの幅広さを伝える上で強調したいのは、様々な場面で武器になる「物の見方」を鍛えてくれるところです。私が赴任直前に担当していたのは、寡占化しやすい産業構造を持つ携帯電話事業にMVNO等を通じて競争を「作り出す」仕事でしたが、競争だけを重視して基幹インフラへの投資や安全性、利用者利便が損なわれないよう、関係者の顔を思い浮かべながら、多様な価値観を両立させる政策ツールを駆使しています。そうした国内での政策立案の経験の先に、国と国の利害を

ぶつけあう外交の舞台が待っています。

一つでも多くの視点を持つこと、その中で最適解を導き出すことが成長ののだとすれば、総務省ほどそれができる場はないということ、米国の地で日々実感しています。皆さんに総務省の扉を叩いていただくことを期待しています。



出張者とFCC委員長を囲んで



元国務省大使と



外交と内政の地平線で

在アメリカ合衆国
日本国大使館参事官

大内 康次 OUCHI Koji

- 平成 13年 4月 総務省採用
- 同 情報通信政策局放送政策課
- 平成 16年 7月 米国留学(ハーバード大学ケネディ行政大学院)
- 平成 18年 8月 総務省総合通信基盤局国際部国際経済課北米経済係長
- 平成 19年 7月 同 総合通信基盤局国際部国際経済課多国間経済室課長補佐
- 平成 20年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課課長補佐
- 平成 22年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課課長補佐
- 平成 24年 6月 欧州連合(EU)日本政府代表部一等書記官
- 平成 27年 7月 総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐
- 平成 28年 7月 同 情報流通行政局放送政策課統括補佐
- 平成 30年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課調査官
- 令和 2年 1月 総務大臣秘書官事務取扱 9月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課企画官
- 令和 3年 6月 現職